

1. 教育の責任

デザイン技術や制作手法を教授することにとどまらず、学生が社会と接続可能な発想力・表現力・思考力を身につけることを大切にしたい。

思考と実験を繰り返しながら作品を完成させる一連のプロセスから、その後の社会生活、日常生活に活かせるような発想力を養う。学生が自ら考え、試行錯誤し、最後までやりきる力を養うことを、本教育の最終的な責任とする。

2. 教育の理念

それぞれの学生が持つ長所を自身の表現や思考の柱として自覚できるよう支援し、その強みを伸ばすこと。

逆境においても柔軟な発想力をもって状況を捉え直し、しなやかに自らの生きる術を主体的に行動し見つけだす力を育むこと。

3. 教育の方法

基礎段階を終えた学生に対しては、デザインの原理原則を踏まえつつ、現代の制作環境に即した表現方法の可能性を学生とともに考え、スキル習得に終わらないアイデアの応用力を重視する。

テーマ設定から表現、完成までを学生自身が主体的に判断し、試行錯誤を重ねるプロセスを尊重し、教員はその伴走者として適切な助言と軌道修正を行う。

実践的な取り組みを通じて、教員と学生、あるいは学生同士の対話から生まれる発想や、既存の枠組みにとらわれない試みを積極的に評価する姿勢を取っている。実社会と接続する制作経験においては、成果物の完成度のみならず、責任感、他者との協働、制作物が社会に出ることへの意識を育てる。

卒業制作においては、学生一人ひとりがこれまでに培った技術と関心を統合し、自身の表現として結実させる過程を支援する。

実験や失敗を肯定しつつ、期限を守り、完成度を高めるための精神的な持続力や自己管理能力を養うことは、卒業後も創作や仕事を継続していく上で不可欠である。

展示という形で外部の視線にさらされる経験を通して、自己の表現を相対化し、次の制作へとつなげる力を育成する。

4. 教育の成果

過去の伝統的な技法から最新のデジタル技術に至るまで、学生が自身の関心や目的に応じて学びを選択できるよう、幅広い指導を行っている。その結果、各学生が複数の技術を主体的に活用し、自身の表現として最終成果物を完成させる力を身につけている。

5. 改善への努力と今後の目標

デザイン業界は、目まぐるしく変化する情報社会の中にあり、技術や学びの領域そのものが常に更新され続けている。そのため、教員自身も時代の変化と並行して継続的に技術的学習を行い、教育内容に反映させていくことが求められる。

生成系 AI と共存する今後の制作環境においては、表現の可能性を探究すると同時に、伝統的な技術との共生を図ることで、新たな表現や価値の創出を目指す。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：松本 尚 作成日：2026年1月20日

【添付資料】

WEB サイト制作関連資料 1 2025年 PDF 形式 A3 20P (改訂版)

解像度、拡張子、その他基本事項について 2023年 A4 PDF 形式 5p (改訂版)

モーショングラフィック関連資料 2025年 PDF 形式 A4 冊子形式全7冊 総ページ数約 P80 (改訂版)

モーショングラフィック関連資料 2025年 PDF 形式 A3/B4 15枚 (改訂版)